

◆「FUJINON 映像機器 内覧会 2019」

富士フイルムは「FUJINON 映像機器 内覧会 2019」を大阪・東京にて開催。また、「東北映像フェスティバル」、「関西放送機器展」、「九州放送機器展」にも出展。

主力である放送用レンズ「UA シリーズ」をはじめ、現場での運用性を向上させるアクセサリ、世界各国から大きな反響をいただいているプロジェクター「FUJIFILM PROJECTOR Z5000」などを多数展示する予定。

< FUJINON 内覧会 >

FUJINON 大阪内覧会

6月4日(火) 10:00～18:00

6月5日(水) 10:00～17:00

メビック扇町

大阪市北区扇町 2-1-7 カンテレ扇町スクエア 3F

FUJINON 東京内覧会

青山テピア / 会議室 A・B・C (B1F)

東京都港区北青山 2-8-44

6月11日(火) 10:00～18:00

6月12日(水) 10:00～17:00

< 出展機器展 >

●東北映像フェスティバル

5月30日(木) 10:00～17:00

5月31日(金) 10:00～17:00

仙台国際センター展示棟 仙台市青葉区青葉山無番地

●関西放送機器展

7月10日(水) 10:00～18:00

7月11日(木) 10:00～17:00

ATC ホール 大阪市住之江区南港北 2-1-10

●九州放送機器展

7月31日(水) 10:00～18:00

8月1日(木) 10:00～17:00

福岡国際センター 福岡市博多区筑港本町 2-2

< 主な展示内容 >

4K 対応放送用ポータブルズームレンズ「UA46x9.5/13.5」

PL マウントシネマ用ズームレンズ「Premista 28-100」

※東京会場のみ

高輝度・超短焦点プロジェクター「FUJIFILM PROJECTOR Z5000」

◆富士フイルム：レンズ本来の解像力を引き出し、高画質な写真撮影を実現

周期性の低いカラーフィルター配列を用いたデジタル撮影素子の発明」で令和元年度全国発明表彰「文部科学大臣賞」「発明実施功績賞」を受賞 ミラーレスデジタルカメラ「X シリーズ」のイメージセンサーに採用

富士フイルム株式会社(社長:助野 健児)は、公益社団法人発明協会が主催する令和元年度全国発明表彰において、「周期性の低いカラーフィルター配列を用いたデジタル撮影素子の発明」で、「文部科学大臣賞」と「発明実施功績賞」を受賞した。本発明は、当社デジタルカメラに搭載しているイメージセンサーに、周期性の低い独自のカラーフィルター配列を採用することで、解像度低下の原因となっていた光学ローパスフィルターを使用せずに色モアレ(*1)を抑制し、高画質な写真撮影を実現するものだ。同社はこの技術を、ミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM X-T3」や「FUJIFILM X-T30」など「X シリーズ」の「X-Trans™ CMOS」(*2)センサーに採用している(*3)。

全国発明表彰は、我が国の科学技術の向上と産業の発展に寄与することを目的に、独創性に富む優れた発明などを表彰する制度(*4)。「文部科学大臣賞」は、科学技術的に秀でた進歩性を有し、かつ顕著な実施効果をあげている発明などに与えられ、また「発明実施功績賞」は、「文部科学大臣賞」を含む特別賞など

を受賞する法人の代表者に贈呈されます。今回の受賞は、同社の「周期性の低いカラーフィルター配列を用いたデジタル撮影素子の発明」が、我が国の科学技術の振興、産業経済の発展に大きく貢献したことが評価されたものである。

なお、表彰式は、常陸宮殿下ならびに同妃殿下ご臨席のもと、6月10日(月)にホテルオークラ東京にて行われる予定。



- *1 被写体に本来存在しない色が縞模様で現れる現象。
- *2 X-Trans™は、富士フィルム(株)の商標または登録商標です。
- *3 一部「X-Trans™ CMOS」センサーを採用していない機種もある。
- *4 発明協会の奨励事業に対する皇室の深いご理解のもと、1925年の恩賜金拝受を記念して制定された歴史ある賞。

〔文部科学大臣賞〕受賞者〕

田中 誠二 R&D 統括本部 光学・電子映像商品開発センター 技術マネージャー

林 健吉 R&D 統括本部 光学・電子映像商品開発センター

〔発明実施功績賞〕受賞者〕

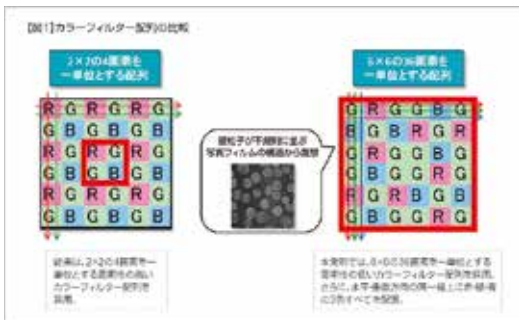
助野 健児 代表取締役社長・COO

〔写真〕「周期性の低いカラーフィルター配列を用いたデジタル撮影素子の発明」を実用化した「X-Trans™ CMOS」センサーを搭載したミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM X-T3」(写真左)と「FUJIFILM X-T30」(写真右)

〔発明の背景〕従来のデジタルカメラのイメージセンサーで採用されているカラーフィルター配列は、2×2の4画素を一単位とする周期性の高いものであるため、細かい市松模様など被写体の規則的な模様とカラーフィルターの周期的な配列が干渉し、色モアレ(*1)が発生しやすいと言われています。通常、レンズとイメージセンサーの間に光学ローパスフィルターを使用して色モアレを抑制しますが、光学ローパスフィルターは解像度を低下させるという課題がありました。

〔発明の内容〕

銀粒子が不規則に並ぶ写真フィルムの構造から着想を得て、6×6の36画素を一単位とする周期性の低いカラーフィルター配列を採用したイメージセンサーを開発。光学ローパスフィルターを使用せずに色モアレを抑制し、レンズ本来の解像力を引き



出すことができる。さらに、水平・垂直方向の同一線上に赤(R)・緑(G)・青(B)の3色すべてを配置することで色情報を正しく取得でき、被写体本来の色を再現することが可能。

問い合わせ先：報道関係 コーポレートコミュニケーション部

TEL 03-6271-2000

富士フィルム FinePix サポートセンター TEL 050-3786-1060

富士フィルム広報 公式アカウント twitter